

普及活動情勢報告

情勢報告（平成29年1月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

年末年始・お正月の帰省時期に合わせてUターン就農を促進 ～新規就農相談会の開会～



相談者へ支援策を説明

1月4日、J A四万十農協会館で、高南地域営農協議会が就農相談会を開催し、町内出身者4名の参加がありました。

参加者の相談内容に応じて、町から就農支援策、J Aから栽培概要や園芸用ハウス整備事業、普及所から制度資金、農業担い手育成センターから就農研修の概要等について説明を行いました。

参加者からは「まずは農業担い手育成センターで研修を受けて、その後新規就農推進事業（親元就農の支援策）を活用したい」「親元就農し、J A生産部会に加入して栽培技術を習得したい」等の声が聞かれました。

普及所は、参加者の就農、経営の安定に向け、今後も関係機関と連携して支援していきます。

ナバナの品質向上に向けて ～J A高知はた十和地区ナバナ出荷目慣らし会の開催～



熱心に説明を聞く生産者

1月10日、J A高知はたが十和地区でナバナ出荷目慣らし会を開催し、生産者29名が参加しました。

J Aと園芸連からは出荷方法について、見栄えが良くなるようにナバナを束ねる際に蕾の色を揃えること、1箱内の緑色の濃さが均一になるように束の色を揃えること、縦横の列を揃えて隙間なく箱に詰めることの説明がありました。

普及所は、問題となっている根こぶ病の拡大を防ぐ対策を説明し、栽培終了時に株の抜き取りを行うよう呼びかけました。

普及所はJ Aと連携して、ナバナの品質向上に取り組んでいきます。

大正と窪川地区のイチゴ生産者が交流 ～2 J Aのイチゴ部会の合同現地検討会の開催～



久しぶりににぎやかな
現地検討会

1月17日、J A四万十イチゴ部会とJ A高知はた大正支所園芸部イチゴ部会が、窪川地区において合同で現地検討会を開催し、両部会員合わせて7名が参加しました。

J A四万十イチゴ部会長の「大正の若い生産者にその気があるなら、自分が今まで培ってきた技術を全部教えてやる」の一言がきっかけで、普及が仲を取り持ち実現しました。

両地区ともに部会員数は減少し、高い技術を持ちながら後継者のいない窪川地区と、四十代前半の2名が中心となり部会に活気が出てきた大正地区となっていますが、普及所は、お互いが刺激し合っ

十和の伝統野菜を次世代の子供たちへつなぐ ～昭和小学校で出前授業を開催～



昔かぶを収穫する小学生ら

1月17日、大道地区の昔野菜栽培農家3人と普及所、J A高知はた十和支所、関係機関の職員が、四万十町立昭和小学校の3、4年生の計8人を対象に大道地区に残る食文化の出前授業を行いました。

今年度、3回目となる出前授業では9月に種まきして育てた昔野菜（昔だいこん、昔かぶ、昔高菜）を収穫した後、調理実習を行いました。小学生からは、「大きなかぶをみんなで引っ張るのが楽しかった」「大きな大根を切るのが大変やった」「昔高菜と鶏肉の炒めものがおいしかった」といった多くの感想を聞くことができました。

普及所は今後も十和の伝統野菜と食文化を子供たちに伝えていく取り組みを同校や昔野菜栽培農家らと連携し取り組んでいきます。

北幡地域の有望作物として薬用作物セネガを振興 ～セネガ研究会の開催～



種子の配分を協議中

1月18日、J A高知はた十和支所においてセネガ研究会が作付前の打合せを行い、5名が参加しました。

J Aからは29年度に計画されている作付面積から種子の必要量が報告され、採種した種子の新規栽培者への配分調整を行いました。

普及所は、28年度に実施した栽培実証試験において、播種時のもみ殻施用が発芽率を高めることや、摘心処理等の倒伏防止対策によって10%程度の増収効果があったことを報告しました。

北幡地域ではセネガを振興しており、J A高知はた十和支所における29年度の農家数は13戸、面積は約1haとなる見込みです。

本年の稲作を振り返る ～J A四万十エコ栽培米部会出荷反省会の開催～



出荷反省会の様子

12月26日、J A四万十営農総合センターにおいてJ A四万十エコ栽培米部会の出荷反省会が開催され、7名の生産者が参加しました。

普及所は、本年の水稻の生育概要について情報提供や、問題となったごま葉枯病の対策方法について指導しました。

生産者からは「今度は雑草対策（主にヒエ）についても指導して欲しい。」などの要望が出されました。

普及所は今後も、四万十町産米の品質や収量向上だけでなく、環境に配慮した栽培方法についても支援していきます。

四万十の栗産地の再生に向けて ～せん定講習会の開催～



せん定の実技の様子

1月18日～25日のうち6日間で、J A高知はた十和・大正支所栗部会のせん定講習会が開催されました。

普及所は、樹形が超低樹高になるまでの図解や、せん定の効果と施肥について説明し、普及指導協力員がせん定の実演を行いました。

生産者は、「この樹はどのようにせん定するのか？」など多くの質問が出ました。

普及所は関係機関と連携して、四万十の栗の産地の再生に向けた支援を行っていきます。